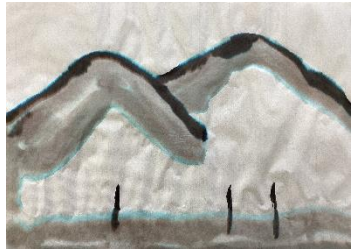
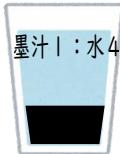


[つくば特別支援学校教材教具シート]

教材	水墨画を描こう～三墨法～		
作品例 「作品名」	 「桃李成蹊」	 「胸中成竹」	 「双峰創源」
対象	全児童生徒		
目的・効果	- 幅広い実態の児童生徒が取り組みやすく、鉛筆、クレヨン、絵具（多色）など、他の画材での描画よりも奔放な表現ができる。 - 墨の濃淡、にじみやぼかしなど応用的な技法を用いることで遠近感や立体感の様々な表現ができる。 - 事前に名画の鑑賞なども行うことで、学習指導要領の「美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や、我が国の美術や文化に関する指導を一層充実する」が図れる。		
使い方	○準備物    ア  イ  ウ  やり方A ① 描きたいモチーフ（実物、写真など）を見ながら、アで輪郭線の下描きをする。 ② 筆をよく拭きとり、ウを筆の半分まで、イ を先端に着け、筆先を整えてから、筆全体で、①をなぞるように描く。 （筆先のほうが濃く、筆腹のほうが淡く色づく。漢字の「一」を複数繋げてかくと「竹」っぽく描けるので練習になる。） やり方B ① 描きたいモチーフを見ながら、アで輪郭線の下描きをする。 ② 筆をよく拭きとり、先端にだけ イ を着け、筆先を整えて、①の輪郭をなぞるように描く。 ③ ウを筆全体に着け、②をなぞるように、色を着けていく。 水の加減で、「ぼかし」や「にじみ」がうまれます ④ 筆を細く使い イ で、全体を整えたり、加筆を行い、完成です。 その他 ・インターネットにも、描き方の紹介がたくさんあるが、描き方に厳密な決まりはない。自由な方法で表現を楽しんでもらえればよいと思う。 ・乾くと色が薄くなりがちである。 ・水が多いと半紙が破れやすい。重ね描きも破れやすい。		